

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 生徒たちが「入学してよかった」と誇れる学校に！ 保護者の皆さんが「入学させてよかった」と感謝いただける学校に！
- 卒業生の皆さんが「母校」として自慢できる学校に！ そして、地域の皆さんからは「頑張れ」と応援していただける学校に！
- 1 自尊感情や自己肯定感を高める：傾聴と共感、「ええここはほめる」でも「あかんもんはアカン」のぶれのない生徒指導
 - 2 生徒の興味・関心を引き出す授業：創意工夫と教育資材の活用で「そうなんや」「わかった」「できた」の声が聞ける授業
 - 3 めざす進路の保障：計画的なキャリア教育で生徒の夢を叶える
 - 4 部活動や学校行事等の活性化：頑張った生徒はどんどんほめる。「やったー」「やるやん」達成感を共感できる行事
 - 5 地域連携とPTA活動の活性化：形だけで終わらない「P」と「T」の連携。保護者を学校に呼び戻す

『 堺上高校はそんな学校をめざしています！！ 』

2 中期的目標

- 1 確かな学力を身につけるための取組み
 - (1) 1年次からの計画的なキャリア教育を通じて、学びへの意欲を高める。
 - (2) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立する。
 - (3) 少人数授業（英語、体育、数学）を活用し、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。
 - (4) 教育委員会等の支援事業を活用し、早期に進路目標をもたせる指導を行う。
 - ア 総合的な学習の時間「発見」や各教科を通じて進路に関わるあらゆる情報を提供する。自己の適性を正確に知り進路実現のために早く準備をさせ、26年度は、卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率を2%以下に、就職内定率は100%をめざす。
 - イ PTA主催の大学見学会の広報と充実を図る。平成25年度は2回実施で生徒・保護者参加総数が34名であったが、26年度は50名の参加をめざす。
 - (5) ICTを活用した授業実践について研究協議を行い、積極的な活用を図る。ビジュアル教材の活用にも努め教材の共有活用化を図る。
 - (6) 各教科の指導や評価を工夫し、課題プリントの提出の徹底を図る。現在は、定期考査時以外の家庭学習ゼロの生徒が63.9%いるが、平成28年度には5割以下にする。
 - (7) 授業アンケートの分析と活用により、授業力の向上を図る。
 - (8) 研究授業やパッケージ研修等を通じ、上高「授業スタンダード」の確立と共有化を図る。
- 2 基本的な生活習慣確立と規範意識向上に向けた取組み
 - (1) コミュニケーションの第一歩として、笑顔で挨拶できる習慣づくりを展開する。
 - ア 登校時の校門での声かけを毎日実施し、挨拶の徹底を図る。
 - (2) アルバイト主体の生徒へのアプローチを強める。
 - ア 学習への取組やクラブ・クラス活動参加、出欠状況等に影響が大きいアルバイト（現在は6割以上の生徒が経験）を最小限にとどめるため、合格者説明会時から保護者・生徒に広報活動を続け、アルバイトを主に考える生徒の割合を3年後には4割以下に減少させる。
 - (3) 人間関係づくりに留意し、互いの人権を尊重する気持ちを育む。
 - ア 入学当初から、HRや総合的な学習の時間や学年行事で他者理解を深める指導を徹底する。
 - イ 学校生活支援カードの活用や学校いじめ防止基本方針の徹底を図り、教育相談体制の充実をめざす。
 - (4) 2学期以降、地域の祭りや生活リズムの変化で、遅刻する生徒が急増する傾向にある。自律心を育て時間を守る習慣を定着させる。
 - ア 学年指導を工夫し、全教職員一致した指導を行う。
- 3 学校行事や生徒会活動・部活動の活性化に向けた取組み
 - (1) 25年度は1年生が51%、全体では44%の部活動加入率であった。体験入部システムの改善や活動成果の広報等により26年度に全体で45%以上、3年後の28年度には50%以上としたい。堺上高校は「部活動の盛んな学校」というイメージを広報活動等様々な活動を通じて定着させる。
 - (2) 練習場所の確保や練習環境の整備に努める。対外的活動を充実させ、運動部・文化部ともに大会や発表会への参加率を上げる。
 - (3) 中高連携を推進するため、「堺上高杯」をさらに発展させる。
 - (4) 文化祭や体育大会等学校行事の更なる充実に向け、生徒の自主的な参画に努める。
- 4 校内運営体制の改善と人材の育成
 - (1) 分掌や各種委員会等の業務の見直しを行い、業務の精選と簡素化、業務量の均等化、情報の共有化をめざす。
 - (2) 事務室業務の見直しを行う。業務内容の洗い出しを行い簡素化に努めるとともに、経費の効果的な執行に努める。
 - (3) 新たな取組や改善方策の提言を集約し、改善に努める。
 - (4) 現在ある将来構想委員会の業務を見直し充実を図ることにより、将来に向けた新たな構想構築をめざす。
 - (5) 指導教諭を活用し、フレッシュミーティングを年5回開催するなど充実を図り、経験年数の少ない教員の育成システムを構築する。
- 5 広報活動の充実と保護者や地域連携との連携の推進
 - (1) 「学校案内リーフレット」やホームページ等の工夫を行い、中高連絡協議会を年2回開催するなど充実を図り、各中学校へ本校の良さを発信する。
 - (2) 教育産業（学習塾等）への広報活動を強化する。
 - (3) PTA活動内容の精査を行い、更なる活動の充実を図ることにより、保護者の皆さんがPTA行事や学校行事に積極的に参加していただくよう努める。
 - (4) 堺市との連携による子育てサポートルームの更なる活用を図り、地域連携を推進する。
 - (5) 保護者向けに行っているメール配信の更なる充実を図る。平成25年度の登録率36%を来年度は40%以上に3年後に50%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】生徒の学習指導に関する回答では、「わかりやすい授業が多い」が昨年度の44%から6ポイント増の50.4%となった。「教え方に工夫している」も昨年度59%から63%と4ポイント増となり、徐々にではあるが改善への取組みの成果がでてきたように感じる。今後も、授業改善に向けた取組みを一層推進したい。生徒アンケートでは考査前を除く普段の家庭学習を全くしない生徒が昨年は64%いたが、本年度は55.7%と少し改善されたもの、今後も家庭での学習習慣の定着が大きな課題と考える。</p> <p>【学校生活等】「学校へ行くのが楽しい」と答えた生徒が昨年度の59%から66%と7ポイント増となった。「楽しく学校に行っている」保護者も昨年度75.5%から76.7%と微増ではあるが、増加した。学校行事や校則・マナーに関するアンケートでもそれぞれポイントが増加しており、徐々にではあるが学校生活全般に活性化が図られてきていると感じられるようになった。アルバイトをおこなっている生徒は昨年と同様に約6割おり、部活動加入者が約4割であるので放課後の活動は「部活かバイト」の構図となっている。生活全体がアルバイトを中心に回っている生徒も多く、部活動への加入率を高め活性化を図ることによりその減少を図りたい。</p> <p>【保護者連携等】保護者への文書・事務連絡等は比較的高い評価を得ている。昨年度より発信を始めた保護者向けメール配信「365日いつでもネット」の加入率が58%と急増し、さらに連携が深まったと感じる。「PTA活動が活発である」が昨年度の38.3%から12ポイント増の50.2%となった。今後も、更なる連携に努めたい。</p>	<p>第1回（6月13日実施） ○平成25年度報告をおこなった。平成26年度学校運営計画についても協議をおこないご了承いただいた。</p> <p>第2回（11月25日実施） ○授業見学を実施した。また、行事等の報告をDVD映写でおこないPTA活動についても報告をおこなった。</p> <p>第3回（2月4日実施）【次年度に向けた学校への提言】 ○学校状況報告及び今後に向けた取組みについて協議をおこない、委員長から下記の提言をいただいた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究授業週間やICT活用研修を実施するなど、生徒の興味・関心を引出し、確かな学力を身につけることができるよう改善に取り組んでいただいた結果、「わかりやすい授業が多い」が50.4%に、「学習内容が理解しやすいように教え方に工夫をしている先生が多い」が63.1%になるなど一定の成果が表れたと思います。今後も、授業改善に向けた更なる取組みを推進していただくことを期待しています。具体的には、入学当初から中学校段階でのつまづきの原因を生徒自身で理解させ、その克服を図ることができるような創意工夫、ICTの活用、同僚性を活かした授業改善への取組み等の推進を期待します。 2. 部活動については、活動内容は運動部・文化部ともに活性化が図られてきましたが、部活動の加入率が40%と目標に達することができませんでした。具体的な方策として、合格後すぐにアルバイトが生活の主体とならないような指導をおこなうなど、加入率をあげる工夫をしていただければと思います。また、顧問等指導者の確保や教員が部活動指導の時間を取りやすい体制づくりを図るとともに、施設や用具等の環境整備に努めてください。 3. 経験の少ない教員が多いという年齢構成をチャンスと考え、人材の活用を図ってください。具体的には、初任者研修を経験の少ない教員の育成にも活用する。また、将来構想委員会やフレッシュミーティングの更なる活用を推進してください。

3 本年度の取組内容及び自己評価

標 的 中 期	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組	(1) 「生徒が意欲的に取り組む授業」の創造をめざす。 ア 興味・関心を引き出すための創意・工夫と教育資材の活用 イ 教員相互による研究協議等の実施 ウ 「上高授業スタンダード」の確立と共有化 (2) 多様な進路を実現するための支援充実を図る。 ア 進路支援システムの充実 イ 漢検・英検・パソコン検定の受検促進	(1) ア・少人数展開授業（英語・数学・体育）等を活用し、中学校段階で理解不足の教科の克服を図り、基礎的な学力を身につけさせる。 ・興味・関心を引き出す授業を行うため、ICTの活用やプレゼンソフトを活用した教材開発について推進する。 イ・パッケージ研修等を活用し、実践的な授業力の育成が図られるような研究授業や研究協議を実施する。 ・授業アンケート結果の活用について更に協議を深める。 ウ・経験の少ない教員を対象にフレッシュミーティングを開催し、その中で上高「授業スタンダード」について協議し、共有化を図る。 (2) ア・教委等の支援事業を活用し、外部講師等による進路講演会や就職支援コーディネーターを活用した就職合格対策を行う。・進学希望者向けに個々の進路に応じた個別講習を実施する。 イ 漢検・英検・パソコン検定の受検の促進を図る。	(1) ア・ICT活用研修会の実施・学校教育自己診断における授業への生徒の授業満足度を50%に(25年度44%) イ 2学期中の協議会実施 ウ フレッシュミーティングを5回開催する。上高「授業スタンダード」の確立と共有化 (2) ア・外部講師等の進路講演会を2回以上行う。 保護者対象のそれぞれの進路講演会への参加者数の10%増をめざす。 ・就職一次合格者の25年度並みをめざす。(H25は77%) イ・大学見学会の参加者数の20%増(H25は34名)・H25 漢検111名、英検13名、パソコン検定47名の受検者の20%増をめざす。	(1) プレゼンテーションソフト活用研修及びワープロソフト研修を実施し、情報の授業でもICTを活用したプレゼン公開授業を1年全クラスで実施した。自己診断における授業への生徒の満足度は50.4%と目標を達成した。今後は、教育資材の活用や教材開発のためのハード面充実も含めた取組みが必要と考えている。(○) 年2回の研究授業週間及び初任者研究授業を実施、研究協議やフレッシュミーティングを通じて「授業スタンダード」の確立と共有化が図られた。これらの取組みでメンターを核にしながら経験の浅い教員を中心に同僚性を活かした協議が活発になった(○) (2) 外部講師による進路講演会や支援コーディネーターを活用した就職対策等予定通り実施できた。進路講演会への参加は10%増。これらにより、就職一次合格率は4ポイント増の81%と想定以上の結果を出せた。その後の指導の甲斐もあり、学校幹旋希望者は1名を除き進路が確定した。看護系進学希望者向けの補講はほぼ毎週実施、実力をつけた。(◎) 大学見学会は7割増の57名が参加、大学進学への意欲の向上が図られた。(◎)漢検は64名、英検11名で減、パソコン検定69名と5割弱の増となった。(○)
2 基本的な生活習慣確立への取組	(1) ぶれのない指導（あかんもんはアカン）と頑張った生徒への支援（ええとこはほめる）に努める。 (2) 教育相談体制の充実を図るとともに、互いの人権を尊重する気持ちを育む。 (3) 遅刻の減少と頭髪や服装等のマナーの向上	(1) ・登校時の校門での声掛けを実施し、挨拶の徹底を図る。・生活指導部を中心に駐輪指導を行い、その際に自転車マナーの啓発を行う。 (2) 平成25年度から導入する学校生活支援カードの活用を図る。学校いじめ防止基本方針の徹底を図り、互いの人権を尊重する気持ちを育む。新たに改組した教育相談委員会を効果的に機能させながら教育相談体制の充実をめざす。CSの協力を得、相談室の有効的な活用を図る。 (3) 遅刻回数による居残り指導や遅刻防止強化週間、入室許可書等これまでの遅刻指導システムを継続させながら減少に取組む。・頭髪指導日の設定など頭髪や服装マナーを継続的に指導する。・校外補導に際し、地域清掃等の連携を推進する。	(1) 学校教育自己診断の分析で、校則やルールの遵守肯定度10%増(H25は72%) (2) 学校生活支援カードの趣旨の徹底と活用・いじめ防止基本方針の徹底・教育相談件数と内容の分析 (3) 遅刻統計の集計比較25年度の10%減をめざす。 ・月1回の校外補導の実施と地域清掃の実施	(1) 生徒への声掛けが生徒指導の基本であることから、登校時の声掛けを、生徒指導部が中心となり駐輪指導と並行し1年間を通じて毎日行なった。学校教育自己診断で校則やルールの遵守の肯定度は73%と昨年より1ポイント増の74%となった。(○) (2) 教育相談体制を見直し、生活支援カードの活用も図ったことから生徒の小さな変化にもきめ細かな対応ができるようになり、外部機関との連携も進んだ。スクールカウンセラー相談件数は1月末で30件、保健室入室数は300件増の1500件で、その多くは教育相談を伴うものであった。(◎) (3) 居残り指導、入室許可書のシステムを継続して行ったが、遅刻数で現在8,325件と横ばいである。頭髪指導日を設定し指導を徹底することにより頭髪違反はほとんどなくなった。月1回の校外補導時には清掃活動を行うなど地域との連携に努めた。(○)
3 学校行事や生徒会・部活動の活性化に向けた取組	(1) 部活動の活性化を図る。 (2) 部活動における中学校との連携の推進。 (3) 学校行事の活性化を図り、生徒が達成感を感じることでできる行事づくりをめざす。	(1) ・学校説明会や中学校訪問、体験入部の工夫等を行い、1年次の加入率をあげる。・対外的活動の充実を図り、運動部。文化部ともに大会や発表会への参加率を上げる。・教員集団全体で部活動を支援する体制づくりに努める。・練習場所の確保や練習環境の整備に努める。 (2) ソフトテニス部が運営する「堺上高杯」を更に充実させる。女子の大会開催を検討する。 (3) 体育祭や文化祭等の行事においては、生徒会執行部や部員等の参画に努め、生徒が達成感を感じることでできる行事づくりをめざす。	(1) 1年次の部活動加入率を、55%以上、全体の加入率を45%以上、女子運動部加入率20%以上をめざす。 女子部大会参加率の向上。 (2) 「堺上高杯」の中学参加15校以上参加者170名以上をめざす。女子大会の開催。 (3) 学校行事満足度60%をめざす(H25は52%)	(1) 体験入部に改善を加えたが、1年生44%、全体で40%、女子運動部で19%と目標に届かなかった(△)ただ、活動内容では野球部が仁徳杯優勝、ソフトテニス部が府3位、近畿大会ではベスト16、陸上部で阪奈和大会出場などの成績を残した。また、柔道部と卓球部の同好会が発足するなど、部活動自体の活動は活性化してきた。(◎) (2) 「堺上高杯」は女子大会も実施し男女で38チーム238名の参加があり充実した大会となった。(◎) (3) 体育祭や文化祭等においては生徒が達成感を感じることでできる行事となり、学校行事満足度は56%となった。文化祭では来場者が昨年より400名増え、体育祭にも多くの保護者に応援頂いた。(○)
4 校内運営体制の改善と人材の育成	(1) 分掌や各種委員会等の業務の見直しを図る。 (2) 事務室業務の精査と経費の効果的な執行に努める。 (3) 新たな取組や改善方策の提言等の具現化をめざす。 (4) 指導教諭を活用し、経験年数の少ない教員の育成を図る。	(1) ・平成25年度に引き続き、各分掌等の業務洗い出しと個々の業務分担表を作成し、業務の精選と簡素化、業務量の均等化、情報の共有化をめざす。・平成26年度からの公務処理システムの全学年導入に伴い、情報系の位置づけについて見直しを行い、校内情報の管理活用システムの検討を行う。・将来構想委員会の守備範囲について再検討を行い、将来を見据えた構想構築を図る。 (2) 事務室業務について洗い出しと精査を行う。また、引き続き経費の効果的な執行に努める。 (3) 新たな取組や改善方策について、学校独自の提言シートを作成し、具現化をめざす。 (4) 指導教諭等を活用し、経験の浅い教員の育成を図るため、平成25年度に引き続きフレッシュミーティングを開催する。初任者を対象に分掌業務や担任業務等OJTを活用した研修を行う。また、1・3学期の2回公開授業・研究協議会を実施する。	(1) ・1学期中の分掌業務分担表の作成、校内情報一覧の作成、将来構想委の設置規定の作成・自己診断での分掌等の有機的な機能肯定率の10%増(H25は60%) (2) 4月初旬に分担表を作成 (3) シート提出数20シート (4) フレッシュミーティングを年間5回開催する。 OJTを活用した初任研と年2回の研究授業と協議会を実施する。	(1) 各分掌長から洗い出された課題についてヒアリングで協議し改善を図った。分掌等の有機的な機能肯定率は68%と増加。語学研修については、民間に委ねることとした。情報係、生徒会係は現状で存続させることとした。将来構想委の業務の精査を行い担当である中学校訪問等も充実したものととなった。現在、アドミッションポリシーの検討にあたっている。(○) (2) 事務室業務分担表を作成し業務の精査を行ったことにより経費の効果的な執行が図られた。(○) (3) シート提出数は5シートであったが、提言にあったICT関係の整備等につながった。フレッシュミーティングからも22の改善項目が提言され施設整備等を改善、他の項目も具現化に努められている。(○) (4) フレッシュミーティングを年5回開催。課題洗い出しを行い学校運営への意欲向上が図られた。2回の初任者研究授業や研究協議を通じて初任を含めた経験の少ない教員の授業力向上が図られた。また、異校種連携として近隣小学校の授業見学を行い子ども目線の学びの支援を学習した。(◎)
5 保護者や地域との連携の推進	(1) 中学校等への広報の充実を図る。 (2) PTAとの連携を深め、PTA活動の更なる充実を図る。 (3) サポートルームの更なる活用を図るとともに、地域や地元企業、小学校等との連携に努める。 (4) 保護者向けネット配信を充実させる。	(1) ホームページの早期更新に努める。学校説明会の教員体制を強化する。中学校訪問については、引き続き入学した全中学校を訪問する。学習塾への広報に努める。昨年度実施した本校主催の中高連絡協議会を2回開催する。 (2) PTA行事を年度当初に確定することにより、行事参加者を増やし、更なる充実を図る。文化祭でのブース内容を検討し、充実を図る。 (3) 子育てサポートルームを授業や希望者生徒を対象とした活動での活用を図り、連携に努める。防災活動を中心とした地域や小学校、地元企業等との連携方策を検討する。 (4) 平成25年度から保護者との連携ツールとして活用を図ったネット配信の更なる充実をめざす。	(1) ・ホームページ閲覧数25年1月からの5万7千回の20%増をめざす。・全中学校訪問を目標とする。・中高連絡会を2回実施し、参加校14校から20校をめざす。 (2) 内容の充実とそれぞれの参加者数の20%増をめざす。PTAブースの設置。 (3) 家庭科で全8クラス実施、希望者体験実習で20名の参加、初任研での社会体験研修で3名以上の参加を。 (4) 配信数50件、登録率4割を目標とする。	(1) 府立学校説明会と地区合同説明会の参加者については微増だが、学校で実施した説明会は昨年度比で32名増となった。強く受験したいと希望する生徒が昨年度比で6ポイント増加し、生徒の意識も高かった。全中学校訪問を実施し、学習塾には中核教室を通じて情報提供を行い連携が図られた。(○) (2) PTA行事全体で参加者が昨年度比で60%増となり、活動自体も充実したものととなった。学校行事等への協力が生徒たちの支援にも繋がりPTA活動の非常に活発な学校と言われるようになった。(◎) (3) 家庭科の授業全7クラスで実習を実施、希望者体験実習では14名の参加があり初任研でも活用した。残念ながら堺市の方針で本校から移転となった(○) (4) 加入者493名登録率58%と目標を大きく上回った。配信数は現在42回で目標に達する見込みである。学校や生徒たちの状況を適時に伝えることができ、保護者連携に大きな成果をあげた。(◎)